

ウェブサイトからもお申込みいただけます ▶ <https://inclusive-society.net/>

【共生社会フォーラムin千葉 参加申込書】

ご記入いただいた個人情報は、本事業以外の目的には使用いたしません。

法人名 (事業所名) または学校名	*コース①一般(基調講演等)の参加をご希望の方は、この欄は未記入でも結構です。		
連絡先	住所	〒	
	電話番号	FAX	
	E-mail	@	

参加希望コース ※1	職名・肩書き/学部・学科・学年	参加者氏名
<input type="checkbox"/> ① 一般(基調講演等) <input type="checkbox"/> ② 研修(中堅/学生・新任)		代表者(連絡窓口)
<input type="checkbox"/> ① 一般(基調講演等) <input type="checkbox"/> ② 研修(中堅/学生・新任)		
<input type="checkbox"/> ① 一般(基調講演等) <input type="checkbox"/> ② 研修(中堅/学生・新任)		
<input type="checkbox"/> ① 一般(基調講演等) <input type="checkbox"/> ② 研修(中堅/学生・新任)		

推薦欄 ※2	<p>【第1分科会(中堅)の研修希望者がいる場合のみ】研修希望者は、福祉職・教員・行政職としておおむね5年以上の現場経験を有し、福祉施設・事業所・学校・自治体等の職場において職員を指導・助言する立場にあることを保証し、また以下の理由で研修への参加を推薦します。</p> <p>《推薦理由》</p> <p>(推薦者)法人名等・役職・氏名</p>
	印

備考欄 ※情報保障やバリアフリー対応について配慮が必要な場合はこちらにお書き添えください。

状況によりご希望どおりの対応ができない場合があります。その際はあらかじめご連絡いたしますので、ご了承ください。

※1 参加希望コース欄は、「一般/研修」いずれかにチェックを入れ、研修希望者は「中堅/学生・新任」いずれかに○をつけてください。

※2 研修(第1分科会)参加希望者は、所属の施設・事業所、社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、学校長・教育委員会、自治体等から推薦を得てください。

(公財)糸賀一雄記念財団 FAX: 077-567-1708 E-mail: itoga-oubo@itogazaidan.jp
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138滋賀県立長寿社会福祉センター内 TEL: 077-567-1707

【厚生労働省主催】 令和2年度 共生社会等に関する基本理念等普及啓発事業

共生社会 フォーラム

福祉の思想に学び、実践し、語る人に

《2020 | 関東甲信ブロック》

in
千葉

基調講演 講師: 野澤和弘氏 出演: 松本佳奈氏

令和2年 12月17日(木)~18日(金)

千葉県文化会館(千葉市中央区) / 参加無料【要申込】

参加定員: 84名 (一般: 60名 [12/17のみ]
研修: 24名 [中堅16名、学生・新任者8名])

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、手指消毒、検温へのご協力をお願いします。また、発熱がある場合はご欠席ください。
また、感染状況により、両日ともプログラムの内容は変更になる場合があります。

実施 公益財団法人糸賀一雄記念財団、共生社会フォーラム in千葉開催委員会 (構成団体は以下)
社会福祉法人フラット/社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会/社会福祉法人りべるたす/
株式会社ベストサポート/社会福祉法人清心会/社会福祉法人昇/NPO法人エンジョイ・パートナーほっと

申込・問合せ 公益財団法人 糸賀一雄記念財団

TEL 077-567-1707 FAX 077-567-1708 E-mail itoga-oubo@itogazaidan.jp
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 滋賀県立長寿社会福祉センター内

全ての国民が、障害をはじめとする生きづらさの有無によって分け隔てられることなく、人の尊厳の輝きを認め合いながらともに生きる共生社会の実現が求められています。しかしながら、社会の一部には、障害を有する方に対する否定的な意見や偏見が一定数存在することを踏まえ、共生社会を実現させるためには、その基本理念について福祉分野をはじめ広く社会に普及させる必要があります。誰もが等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるという理念等について学び、自らの実践につなげ、さらには所属や地域社会に向けて普及啓発していく人材の養成研修を組み込んだフォーラムを実施します。

プログラム 共生社会フォーラムin千葉は大きく2つのプログラムに分かれています。

<p>【コース①一般参加】 基調講演やトークプログラム</p>	<p>【コース②研修参加】 共生社会における語り部等養成研修</p>
<p>松本佳奈氏によるパフォーマンス、基調講演では共生社会の実現に向けて先駆的に取り組みを推進する実践者からお話をうかがいます。上映では、日本の障害福祉の父と言われる「糸賀一雄」の思想と実践についてまとめたNHK番組をご覧ください。</p> <p>*1日目14:10までのプログラムにご参加いただけます</p>	<p>津久井やまゆり園事件を契機に、福祉に携わる人々の資質や対話のあり方が問われています。研修では福祉施設で職員を指導・助言する立場にあり共生社会の基本理念を語り広める「福祉支援語り部」を養成する第1分科会、福祉分野に関心を持つ学生や福祉職新任者の方を対象とする第2分科会に分かれてのグループワーク研修を行います。</p> <p>*2日間すべてのプログラムにご参加いただけます</p>

参加申込方法・定員 ウェブサイトからもお申し込みいただけます。

<p>申し込みは、コース①のみ参加の「一般参加」とコース①・②両方に参加する「研修参加」の2種で、いずれも事前の申込が必要です。ウェブサイト、もしくは裏面申込書の必要事項を記入の上、FAXまたはメールでお申し込みください。「一般参加」に参加条件はありませんが、「研修参加」は右の条件を満たす方が対象です。また、研修参加者には事前に資料をお送りします。あらかじめ資料を読んで研修に臨んでください。</p>	<p><第1分科会>福祉支援語り部(中堅) 福祉職や教員および行政職としてとしておおむね5年以上の現場経験を有し、職場で中堅職員、管理者等として職員を指導・助言する立場にある人。研修を経て共生社会の基本理念を職場内で実践し、語り広めることが期待できる人で、所属の施設・事業所、社会福祉協議会、社会福祉法人経営者協議会、学校長・教育委員会、自治体等から推薦された人。</p> <p><第2分科会>学生・新任者 在籍する学部等を問わず、福祉に強く関心がある大学生等。または、福祉施設・事業所等に就職しておおむね数年以内の新任者や内定者。</p>
<p>定員:コース①60名 / コース②24名(第1分科会16名/第2分科会8名) 申込受付期間:令和2年11月5日(木)~12月14日(月) ※定員になり次第、締め切りとします。</p>	

会場アクセス

千葉県文化会館

JR「本千葉」駅より 徒歩約10分
 千葉都市モノレール「県庁前」駅より 徒歩約7分
 京成バス「郷土博物館・千葉県文化会館前」より 徒歩2分
 千葉市中央区市場町11-2 TEL 043-222-0201



出演者・講師プロフィール

松本 佳奈氏



1985年生まれ、千葉県木更津市出身のシンガーソングライター。母子家庭に育ち、家族と価値観が衝突した経験や、いじめや学級崩壊がきっかけで不登校になったこと。過集中や注意欠陥など自身の「個性」と、「自己責任社会」との折り合いが付けられず悩んだことなどから歌詞を書き、曲を紡いできた。現在、0歳と2歳の育児中。

野澤 和弘氏

植草学園大学副学長・教授/毎日新聞客員編集委員



1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。2009年より論説委員を務める。いじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などに取り組む。主な著書に「あの夜、君が泣いたわけ」(中央法規)、「障害者のリアル×東大生のリアル」(ぶどう社)、「なぜ人は虐待するのか」(Sプランニング)、「わかりやすさの本質」(NHK出版)。

スケジュール

▶▶ 1日目 令和2年12月17日(木) ※コース①は、14:10まで

<p>コース①・②対象</p>	10:00 - 10:05	開会あいさつ
	10:05 - 11:00	表現活動 松本 佳奈氏
	11:00 - 12:00	基調講演 「かけがいのないいのちの発信～福祉の思想の伝え方～」 植草学園大学副学長・教授/毎日新聞客員編集委員 野澤 和弘氏
	13:00 - 14:10	上映 NHKスペシャル「ラストメッセージ この子らを世の光に(※脚注)」
14:30 - 17:30	コース②対象	グループワーク研修① (第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) いずれの分科会でも福祉の思想・普遍的価値の共有を目的として、基調講演や映像&トークプログラムを題材に、個人の内面に向き合うワークとグループディスカッションを行います。

▶▶ 2日目 令和2年12月18日(金) ※コース②の受講者のみ対象

9:30 - 12:00	コース②対象	グループワーク研修② (第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) 第1分科会では、やまゆり園での事件を題材に、「生きる意味のない命がある」「障害者は社会に不幸をもたらすだけ」という考えに同調する意見などに返す言葉をもつためのワークを行います。第2分科会では、一般社団法人兵庫県相談支援ネットワークの代表理事でNHK Eテレ「バリバラ」の出演などで知られる玉木幸則氏とともに、「そもそも障害とはなんだろう?」をテーマに率直に語り合います。
13:00 - 15:30	コース②対象	グループワーク研修③ (第1分科会「福祉支援語り部」グループ/第2分科会「学生・新任者」グループ) 第1分科会ではグループワーク研修①や②を踏まえて、それぞれが自らの職場に戻って語りの場を持つことができるよう、メンターのサポートを受けながらアクションプランを作成します。第2分科会では、グループワーク研修②の議論を引き継ぎながら、玉木幸則氏とともに、「受講者一人ひとりが抱える生きづらさ」を言葉にししながら、「福祉=幸せの追求」や「そもそも人が生きること」について、向き合います。
15:30 - 16:00		全体共有・講評/まとめ・ふりかえり/閉会あいさつ

※新型コロナウイルス感染状況により、両日もプログラムの内容は変更になる場合があります。

※ラストメッセージ この子らを世の光に

日本初の公的福祉施設「近江学園」設立に尽力した糸賀一雄と彼を支えた池田太郎や田村一二らについて紹介。障害のある子どもたちと寝食を共にし、生き生きと暮らす糸賀や職員たちの姿を記録した当時のフィルムに映るのは、まさに「福祉」の原点と言える。